

学科	担当教員氏名	テーマ（講義名）	内容
国際経営学科	大久保 文博	海外輸出入門	人口減少することで日本の市場は縮小します。2040年には現役人口（20歳～64歳）5,542万人にまで減少する見込みです。その為、海外の市場にアクセスすることが市場命題です。それでは、地元や日本国内の製品で、海外に輸出できるものはどんなものがあるのでしょうか。身近な商品の輸出の可能性を考えます。
		コンビニからアジアを覗く	日本のコンビニエンスストアは酒屋、タバコ店など零細事業者と共存する形で発展を遂げてきました。近年、これらのコンビニエンスストアは経済発展著しい東南アジア各国に続々と進出をしています。日本型コンビニは現地の消費者とどう向き合っているのでしょうか。現地に進出することで、経済的・社会的にどのような影響があるのかを考えます。
		開発途上国の開発問題とビジネスの可能性	日本の政府開発援助（ODA）は開発途上国の経済発展に大きく貢献してきました。他方、ODAだけでその国が発展するわけではなく、大切になるのはビジネスの存在です。ビジネスは雇用創出、技術協協力、外貨獲得など重要な役割を担っています。また、様々な経済的・社会的問題に対して、ビジネスが解決策を導き出しています。
	大澤 裕次	国際金融入門～「円安」って何ですか？～	「ただ今の円相場は1ドル＝132円20銭～22銭で取引されています」。テレビやラジオでよく耳にするニュースですが、何を意味しているのでしょうか。「円高は輸出にとってマイナスだから、円安が望ましい」という意見がある一方で、「円安のため、小麦や石油が値上がりして困る」という意見もあります。外国為替の仕組みを身近な話題から説き起こし、「円安」について、企業経営の視点から生徒の皆さんと一緒に考えます。
	新川 本	会社ってなんだろう？	平成18年5月施行の会社法によって、日本の会社はどう変わったのか？株式会社が農業や大学の経営も行えるようになって現在の現在、会社のことを知ることは大切なことかもしれません。そんな身近な存在の会社についてお話ししたいと思います。
		会社と社会の関係は？	現代社会において、私たちは会社と無関係で生活することはできません。また、会社も社会の一員として活動しなければ、存続できません。では、会社は地域社会、国、国際社会とどのように適応しているのでしょうか。考えてみたいと思います。
	谷澤 毅	商業が世界をつくってきた	世界が形成され、社会が発展していくうえで、商業・流通はきわめて大きな働きをしてきた。この講座では、歴史が発展していくなかで商業・流通が担った重要な役割を具体的な例を多く挙げながら解説してみたい。
		歴史のなかの国際化	国際化や情報化の動きは最近急に始まったのではなく、長い歴史がある。この講義では、歴史にさかのぼって日本やヨーロッパを舞台とした国際化の展開や海外情報の流通などについて、具体例を挙げながら解説してみたい。
	三浦 佳子	「グローバル化」とそのために必要なこと	「グローバル化」という単語はよく聞きますが、そもそも「グローバル化」って何でしょうか。グローバルに活躍するためには何が必要でしょうか。今、勉強すべきことって何でしょうか。海外でのビジネスの経験を紹介しながら、グローバル人材のあり方を考えます。
		国際情勢と企業経営	新型コロナウイルス感染症パンデミック、ロシアによるウクライナ侵攻、急激な為替変動、緊張感が高まる米中関係などといった国際社会の動きは、企業にとっても私たちにとっても、見逃せないリスクへの対応です。「国際情勢は遠い国の出来事だし、関係ない話」ではなく、当事者意識を持って、毎日の国際情勢を見ていきませんか。国際情勢が企業経営に与える影響について考えてみましょう。
	矢野 生子	けいざい楽（経済学）	「経済学」について、日常生活におけるいくつかの実例を「経済学」という視点から考えると私たちを取り巻く経済の流れが見えるようになりますよ。
	山本 裕	資本主義を可能とした精神文化 ～古典から学ぼう～	モノの売り買いに関する経済活動である商業は、日本をはじめ世界のさまざまな地域で古くから存在してきました。しかし、それを近代的な資本主義へと高めていったのは、古代文明が栄えた中国やインド、中東ではなく、唯一ヨーロッパだったのです。本講座では、マックス・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読み解き、資本主義を可能とした精神構造をさぐり、あわせて古典を読む楽しさを紹介します。